

杏雨書屋蔵 黒川文庫目録

吉川 澄美

東京都

江戸時代末期から大正にかけての国学者三代、黒川春村、真頼、真道の蒐書から成る黒川文庫のうち、「本草」部門の多くは、公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋に所蔵されている。このたび、182点の黒川本を確認できたので、目録として掲載する。

尚、杏雨書屋が所蔵する黒川本にかかわる文庫の変遷、黒川各氏の略歴と蔵書との関わり、さらに蔵書の特色については、別稿¹⁾を参照されたい。また、杏雨書屋内で、黒川本を確認した方法や具体的な手順については、目録の後に「黒川氏旧蔵本の確認方法」を付した。

凡 例

1. 目録は「書名」の読みの五十音順として番号を付した。ただし角書を除いて読みとしたものがある。また、複数の読み方がある場合には、各種目録や凡例8に挙げた参考書などを参照して、妥当と思われる読み方を採用した。各本について「書名・管理番号・刊写・冊数・刊行年と発行者等・備考・参考目録」の順に記載した。
2. 「書名」は『杏雨書屋蔵書目録』²⁾のものを杏雨書屋内データベースと照らし合わせて、旧漢字を通用漢字に置き換えて採用した。両者間に食い違いがある場合は、凡例8に挙げた参考書などを参照して適切と思われる方を採用した。また、『黒川文庫目録』³⁾や『榎考書屋図書目録』⁴⁾ならびに参考書等で採用される名称と異なる場合、あるいは慣習的に使われる別名がある場合は「備考」に記した。
3. 「管理番号」は杏雨書屋で使用されている書籍の管理番号(識別番号)で【】内に示した。昭

和7-8年に購入された榎考書屋本には「杏」または「貴」が付けられ、他の杏雨書屋の本と特に区別されていない。一方、昭和19年頃の藤浪文庫を経由した本には「乾」が付けられている。

4. 「備考」には補足情報を記載した。奥書などを引いた文は「」や引用符で囲み、丸括弧内は筆者の補記、改行はスラッシュ、中略は「…」で代替し、割注は〈〉に入れた。また、引用文は支障の無い範囲で通用漢字に変更し、句読点やスペースを挿入した箇所がある。
5. 「備考」での印記は黒川氏、杏雨書屋の蔵書印、早川氏蔵書票・書名票については省いた。また、藤浪氏についても、管理番号の「乾」で代替できるので省いた。
6. 「備考」で「別稿参照」は拙稿「武田科学振興財団杏雨書屋蔵黒川文庫について」¹⁾を指す。
7. 「参考目録」は『榎考書屋図書目録』ならびに『黒川文庫目録』(本草部門)で各々対応する目録番号を末尾の〔〕内に示した。すなわち、前者は4桁にそろえて「サ:」を付し、後者は「本草」部門における漢数字を算用数字に変更して「ク:」を付して記した。目録に見つからないものは「無し」とした⁵⁾。「サ:」の末尾に「別」を付したものは、伊藤純一郎旧蔵の『榎考書屋図書目録』において別本として書入れされた本に該当する⁶⁾。
8. 目録を作成する際に使用した主な参考書籍等を以下に挙げる。

- 『日本漢方典籍辞典』

小曾戸洋。大修館書店。1999年⁷⁾

- 『年表日本博物学史』

上野益三。八坂書房。1989年⁸⁾

- 『日本博物誌総合年表』
磯野直秀. 平凡社. 2012年⁹⁾
- 日本古典籍総合目録データベース
(国文学研究資料館)¹⁰⁾
- 日本の医薬・博物著述年表
真柳誠(公開画像リンク増訂版)¹¹⁾
- 国会図書館オンライン¹²⁾
- 『本草概説』 岡西為人. 創元社. 1977年¹³⁾
- 『錦窠翁米賀会誌書籍解題之部』
田中芳男. 1891年¹⁴⁾

目 録

- [1] 秋野七草考二卷【杏2100】北野鞠場(秋芳・梅隠・佐原平八)著<刊>1冊,文化9(1812)刊,京都植村藤兵衛等《備考》「秋の七草」の各植物の文献を考証した本.本草書・和漢詩歌・文学書等を引いて植物名を検討し,類品にも言及する.著者の北野秋芳(1762-1831)は江戸の骨董屋・本草家で向島百花園,所謂「万葉植物園」を開いた.同著者には『春野七草考』もあり,黒川氏の旧蔵書に含まれ『植考書屋図書目録』にも掲載されるが,杏雨書屋には入らなかった.美濃判. [サ:0009,ク:81]
- [2] 秋野七草考二卷【杏3286】北野鞠場(秋芳・梅隠・佐原平八)著<刊>2冊,文化9(1812)刊,京都植村藤兵衛等《備考》[1]参照.半紙判. [サ:0009,ク:83]
- [3] あつめがき一卷【杏4525】著者未詳<写>1冊,年未詳《備考》序跋無しの雑録集.砥石・菌・蕈(きのこ)・布・臘納獸・古歌に出てくる「こさ」などの事項について考証する.引用する文献は和書が多い.半紙判9丁. [サ:0025,ク:75]
- [4] 医家千字文註一卷【杏4562】惟宗時俊著<刊>1冊,鎌倉時代,天保年間(1830-44)刊《備考》鎌倉時代の医師惟宗時俊が著した千字文形式による四言二句の医家学識要訣の天保年間の刊行本.『黄帝内経』『難経』『千金方』『新修本草』等を引いた注を付す.「惟宗時俊系統図」などの書入れあり.「寿証亭之記」印あり. [サ:0044,ク:229]
- [5] 医家千字文註一卷【杏4563】惟宗時俊著,岸本由豆流校<写>1冊,鎌倉時代,文化10(1813)校《備考》[4]参照.『医家千字文註』の岸本由豆流(ゆずる)自筆の校本.奥書に「永仁元年十二月十日撰抄之同二年三月/一日書写畢<同四日加點了于時伺候亀山仙洞>時俊(花押)/同四年十一月十八日扶病校二千石尚康已時俊/受庭訓/文章生于時玄輝門院侍中定俊(花押)」「<>内朱筆割注」さらに「文化十年歳次癸酉阜月一校畢/岸本由豆流」表紙に「版本には古訓なし」の真頼の記載がある.墨筆と朱筆の書入あり.印記「朝田家蔵書」(印主岸本由豆流).別稿参照. [サ:0043,ク:226]
- [6] 怡顔齋介品二卷【杏1786】松岡玄達(成章・恕庵・怡顔齋)著<刊>2冊,宝暦8(1758)刊,平安書舗盧橋堂野田弥兵衛,平安橋枝堂野田藤八同刊本《備考》松岡恕庵による介類の図鑑的本草書.蝦・蟹・亀・貝などが含まれる.怡顔齋品類シリーズの一つ.[24]参照.自序は元文5年(1740). [サ:0046,ク:51]
- [7] 医事古言一卷【杏9】吉益東洞(為則)著<刊>1冊,文化2(1805),名古屋書肆永楽屋東四郎《備考》中国古典から医学関連の記事を抄出し論評した医論集.『周礼』『淮南子』『論語』などを引く. [サ:0057,ク:280]
- [8] 医賸三卷附録一卷【杏3302】多紀元簡(桂山・廉夫・櫟蔭)<刊>1冊,文化6(1809),江戸書肆英平吉郎万笈堂《備考》医事に関する論考集.「神農嘗百」「先天後天」等の計168篇の題材を論じる.題名の賸は「余り」の意味.「邨田氏蔵書印」あり.美濃判. [サ:0075,ク:232]
- [9] 医心方三十卷附札記【貴30】丹波康頼,札記森立之等<刊>30冊,安政1(1854)序,万延1(1860)刊,江戸多紀元堅等奉命《備考》平安時代に編まれた日本最古の医学全書の江戸時代における刊行本.典薬頭半井氏蔵写本を底本として幕府により校刻が命じられた.渋江抽斎・森立之らが校正者に加わっていた.「養安院蔵書」の印あり.美濃判.参考までに『黒川文庫目録』にははもう一本別の『医心方』があり,

- それは伊藤圭介の旧蔵書で黒川真頼の奥書のあ
る影写本である。 [サ：0061, ク：163]
- [10] 医籍録一卷【杏519】著者未詳〈写〉1冊,
年未詳《備考》医書・本草書の歴代漢籍著者と
巻数を時代毎に掲示した書籍録。「大始元冊伏
義氏三巻」から始まり、金代の「脈訣刊誤載起
宗」まで続く。表見返しに丸島健伯純の識語が
ある。半紙判, 16丁。 [サ：0064, ク：206]
- [11] 医宗仲景考一卷【杏3305】平田篤胤著〈刊〉
1冊, 文政10(1827)刊, 江戸平田氏伊吹廼屋
塾《備考》張仲景の人物像についての論考。『平
田篤胤全集』に収録。 [サ：0065, ク：227]
- [12] 医略抄一卷【杏1040】丹波雅忠著, 多紀元
簡校注〈刊〉1冊, 寛政7(1795), 江戸多紀氏
聿修堂《備考》救急や日常に要する52種の疾病
についての治療書。『医心方』の実用的な簡略
版。本書は黒川真頼が錦窠翁米賀会に出陳した。
 [サ：0076, ク：275]
- [13] 医療雑譚一卷【杏4683】武田叔安問, 多紀
元堅・喜多村槐園・小島宝素等答, 森立之新
録, 小島尚綱筆〈写〉1冊, 安政7(1860)写
《備考》武田叔安の問いに多紀元堅(菫庭)・喜
多村槐園・小島宝素(尚質)らの答えを書き留
めた医療雑録集。小島宝素の原本を「医事四十
四問」と題した森立之の新録本により, 目録と
按語を加えている。原本は文政年間のもので,
本書には安政6年の森立之の奥書と同7年の小
島尚綱(瞻淇)の墨筆と朱筆の奥書がある。料
紙は「寶素堂鈔本」が印字され, 「小島氏図書
記」の印があり, 表紙に「小島瞻淇自筆写本」と
記される。書題の「療」は実際の本では瘡に楽。
また, 「医療雑譚(談)」とも。半紙27丁(10行
毎半丁)。別稿参照。 [サ：0055, ク：213]
- [14] 隠居放言七卷即又新堂百品考附東夷物産志
稿一卷【杏1273】阿部喜任(享父・樸斎)著,
渋江長伯著(合冊)〈写〉1冊, 江戸後期《備考》
阿部喜任による本草・博物・物産に関する雑
考書。100余りの品目を金石・草・木・虫豸
(ちゅうち)・魚・鳥・獸に部類して漢文体で記
す。奥書に「一名又新堂百品考とも云ふ」とあ
る。合冊された『東夷物産志稿』は渋江長伯と
谷文啓(島田元旦)との蝦夷地採薬行にもとづ
く物産記。蝦夷地の産出物について, 現地の
呼び名を漢字片仮名交じりて掲示する。
 [サ：0079, ク：67]
- [15] 増補飲膳摘要一卷【杏765】小野職博(蘭山)
審定, 小野職孝(蕙畝)編〈刊〉1冊, 安政6
(1859)《備考》文化元年(1804)刊『飲膳摘要』
の再々改訂刊行された食物本草書。文化3年と
文化14年に『飲膳摘要補遺』として改訂版行さ
れ, さらに『増補飲膳摘要』として安政6年に
改訂された。 [サ：0082別, ク：186]
- [16] 陰名考一卷【乾803】松岡調著〈刊〉1冊,
明治18(1885)《備考》生殖器の古名につい
ての論考。「万物の元因(ハジメ)の物」と位置づ
けて記紀, 古辞典, 医書, 本草書など広い典籍
から引用する。『植考書屋図書目録』には見つ
からないが, 早川書名票の痕跡が認められる。太
平書屋から1982年の複製版がある。
 [サ：無し, ク：200]
- [17] 産家やしなひ草一卷【杏2121】佐々井玄敬
(茂庵)著〈刊〉1冊, 安永6(1777), 書肆積玉
圃柳原喜兵衛等《備考》産前・臨産・産後の心
得を平易に説いた庶民向けの産科書。著者は足
立清庵に学び, 後に賀川玄悦(子玄)の門下と
なった。『日本衛生文庫第4輯』, 『日本産科叢
書』に収録。 [サ：0385, ク：256]
- [18] うらわけころも一卷【杏4698】僧泰然著〈写〉
1冊, 寛政6(1794)著, 弘化3(1846)写《備
考》彩色の貝図に和歌を配した図譜。「詠浦分
衣并序」(漢文)と海浜景観図画があり, 本文は
半丁毎に貝の絵と一首書かれる。『植考書屋図
書目録』には「一種一詠, 貝類三十六図を画く」
とある。奥書に「寛政六年甲寅季夏泰然道志識」
「寛政六年十一月一日前参議持豊花押」ならび
に「弘化三年丙午源義直写」。「伊東蔵書」「祐膺
朝臣自書記」印あり。表紙には「泰然著」「珍
本」の記載がある。 [サ：0086, ク：116]
- [19] 衛生秘要鈔一卷【杏4717】丹波行長著〈写〉
1冊, 正応1(1288)著, 延文6(1361)写《備考》
鎌倉時代の養生書。内容は生活態度・衣食住・
飲酒・房中に及ぶ。表紙には「西園寺公衡公抄」

「珍本」と記される。奥書に「正應元年（1288）八月七日 / 皇后宮権大夫公衡郷抄寫進之 / 西園寺竹林院左大臣 / 丹波行長」「大膳権太夫丹波盛長 / 加一見了」「延文六年（1361）正月中旬加一見了 / 権侍医丹波嗣長」。朱筆校正あり。『群書類従』巻九百、雑部第五十に収録される。本書は黒川真頼が錦窠翁米賀会に出陳した。

[サ：0092, ク：228]

[20] 栄木考一卷【杏 1285】伊沢蘭軒（信恬・檐甫）著〈写〉1冊、江戸後期《備考》サカキ（榊）とシキミ（檜）についての考証書。万葉集や記紀などの日本古典や本草書を引用して考証する。「伊沢氏酌源堂図書記」の印あり。表紙に「伊沢蘭軒自筆本」と書かれる。美濃判6丁。

[サ：0094, ク：107]

[21] 蝦夷草木志料【杏 1284】曾占春（槃）著〈写〉1冊、寛政11（1799）自序、文政4（1821）写《備考》蝦夷での植物採集録。渋江長伯と谷文啓の蝦夷地への採集調査に基づいて、曾占春が調べたもの。蝦夷地調査アイヌ名など現地名称に対して和漢名をあてて、形状・用途を和文で記す。寛政11年9月（1799）の自序。奥書には「文政四年写了」が記される。『植考書屋図書目録』には「第一巻…草本114種、第二巻は木本67種考定す」とある。品目はナンカイ（竹節人參）からクッチ（コクハ）まで。

[サ：0095, ク：111]

[22] 延寿撮要一卷【杏 2125】曲直瀬正紹（玄朔・東井）著〈刊〉1冊、慶長4（1599）《備考》曲直瀬玄朔による庶民向けに書かれた養生書。赤色の題箋に「慶長一字板延寿撮要」とある。慶長4年の古活字版。『続群書類従』『日本衛生文庫第6輯』に活字収録。 [サ：0116, ク：277]

[23] 煙草集説一卷【杏 1298】銀郷安斎（伊勢貞丈）編〈写〉1冊、安永3（1774）《備考》煙草の来歴などについて様々な書物から引いた本。16丁の末尾に「安永三年甲午五月八日書伊勢平蔵貞丈集」。 「不羈斎図書記」（印主秋山恒太郎・不羈斎）あり。伊勢貞丈は室町幕府の礼儀作法を司る伊勢氏の子孫で、江戸幕府に仕えた。伊勢流の公家・武家の有職故実や事物の起

源や字訓の正誤などを広く随録した『安斎随筆』の目録に同題書が見える。別稿参照。

[サ：0114, ク：126]

[24] 桜品一卷増桜弁一卷【杏 3347】松岡玄達（成章・恕庵・怡顔齋）著〈刊〉2冊、宝暦8（1758）刊、大阪書林伊丹屋善兵衛等《備考》桜の品種を描き分けて解説した本。花の構造部位に分けて、各部の名称を付した図を含む図鑑的な編纂。この本の自序は享保元年（1716）で、他の怡顔齋品類シリーズの刊行も没後である。怡顔齋品類の中でも、これは特に親しまれたもので『怡顔齋桜品』よりも『桜品』の名で通り、明治時代に至るまで版を重ねた。美濃判四つ折。

[サ：0045, ク：128]

[25] 臘臍臍魚図説【杏 2157】村上島之丞（島之允・秦憶丸）〈写〉1冊、寛政10（1798）著、文化2（1805）写《備考》臘臍臍（オットセイ）獺の彩色図絵を伴う解説書。内題は「臘臍臍魚乃図説」で旁に「オットセイナドリズセツ」と仮名が振られている。表紙には「珍本」と記される。「嵯峨支流渡辺文庫」（印主和泉伯太藩渡辺家）の印あり。別稿参照。

[サ：0124, ク：80]

[26] 海外異魚一卷【杏 1671】ボイス（Egbert Buys）原本、黒田麴廬抄出訳〈写〉1冊、江戸後期《備考》題箋に「海外異魚」、表紙右の墨筆による題と内題は「蒲乙斯字書抜粹」。内容は『ボイス学芸事典』からの抄出翻訳で、適塾門の黒田麴廬によるものと推定される。全18丁のうち、5丁半は墨の濃淡で描かれた魚や鳥、爬虫類を含めた動物の図が占める。別稿参照。

[サ：0142, ク：94]

[27] 海山名物記一卷【杏 1319】著者未詳〈写〉1冊、江戸時代《備考》日本各地の産物を集録した物産書。鉛などの鉱山からキノコ、海産物など分野は広く、用途などを記す。半紙判28丁。「水谷蔵書」印あり。 [サ：0143, ク：95]

[28] 外療新明集残一卷【杏 4819】鷹取秀次（甚右衛門尉）著〈写〉1冊、安土桃山時代《備考》戦国時代に外科医術を創始した鷹取流の外科医書。表紙に「古写本」と書かれる。

- [サ: 0306, ク: 214]
- [29] 河鹿之解一卷【杏4782】著者未詳〈写〉1冊, 江戸後期《備考》カジカガエルについての文献考証本. 図を交えた生態学的な記述に加えて, 和歌・文学・本草書など様々な文献の記述から考察する. 『河蝦考』[32]もカジカガエルに関するが内容は異なる. [サ: 0157, ク: 86]
- [30] 花史左編二十四卷花塵一卷【杏1812】明王路撰(原本), 抄出者未詳〈写〉8冊, 万暦46(1618)原著, 江戸時代写《備考》花卉の集大成『花史左編』万暦46年(1618)の抄本. 「小幡文庫」の印あり. [サ: 0267, ク: 42]
- [31] 華陽皮相二卷原稿二卷【杏1817】沢元愷(弟侯・旭山)著〈刊〉3冊, 寛政1(1789), 江都書林須原屋茂兵衛《備考》儒者平沢旭山(1733-1791)による馬に関する書. 赤驪・盗驪・白義・踰輪・山子・渠黄・華驪・緑耳の八駿の説明を含む. 美濃判半丁に馬の彩色画(鈴木芙蓉)が大きく描かれる. 3冊目は原本の林羅山編『驪黄物色』の漢文体を附刻したもので, 『植考書屋図書目録』では『華陽皮相原稿』として別途項目を立てるが, 杏雨書屋で3冊1帙とされた. [サ: 0278・0279, ク: 43]
- [32] 河蝦考二卷【杏3377】林国雄(真楫・松園・源直楫)著〈刊〉2冊, 文政9(1826)《備考》万葉集以来, 和歌に詠まれてきたカワズについての考証本. 河蝦と河鹿とのちがいを, 魚や虫との関連, カエルの種類についても論じる. 巻二では和歌を掲載する. カエルなどの挿絵あり. 著者の林国雄は通称主税, 水戸生まれで本居宣長門下の国学者. 狂歌を鹿部真顔に学ぶ. 美濃判. [サ: 0156, ク: 24]
- [33] 観文禽譜五卷【杏1677】堀田正敦著〈写〉5冊, 江戸後期《備考》鳥類について和漢古典を引用した博物事典. 漢名・古名・方言などを検討し, 和歌も交える. 冒頭に「引書目」として漢籍89本が掲示される. 1冊目表見返しには「帝室博物館蔵本/禽譜六冊/内訳上本末中本末下本末/獣譜六冊/内訳上本末中本末下本末/右両書とも朱乃藍にて狩谷掖斎の書入あり」という黒川真頼の朱筆の識語がある. さらに「堀田正敦の著なるべし真道」(墨筆)の付箋が貼られる. [サ: 0286, ク: 40]
- [34] 鬼法一卷【杏4901】富小路範実著〈写〉1冊, 明徳2(1391)《備考》室町時代の治法書. 「血ヲ止ムル事」から「諸疵療治事」までの43項目は救急の民間療法的治療が多く, 中には呪的なものも含まれる. 表紙に「京都東寺文庫存本写」の記, ならびに奥書に富小路三郎左衛門尉範実の名で明徳2年(1391)稿本による旨の記載あり. 朱筆校正あり. 本書は黒川真頼が錦窠翁米賀会に出陳している. 『日本衛生文庫第5輯』に収録. 別稿参照. [サ: 0216, ク: 274]
- [35] 救荒事宜一卷【杏28】齋藤正謙(拙堂)著〈刊〉1冊, 文久1(1861)《備考》飢饉への心構えや予兆に関する実践的救荒書. 具体的処置法や救荒食等について『農諭』『民間備荒録』『農業全書』などの和漢書も引く. 著者の齋藤拙堂(1797-1865)は伊勢国津藩の藩儒で, 藩主高猷の侍読, 行政官. 昌平坂学問所で古賀精里に師事し, 書物蒐集や出版にも通じて洋学を藩内で勧めた. また, 藩校に種痘館を開いて施行した. 「須川蔵書」の印あり. 『日本経済大典』第46巻に活字収録. [サ: 0178, ク: 320]
- [36] 救荒私議稿一卷【杏4936】著者未詳〈写〉1冊, 江戸後期《備考》飢饉や戦乱と米価変動などとの関わりについて記した書. 清和天皇在位の貞観年間の出来事などにも触れる. 著者成立年など不詳だが, 天保7年の飢饉についても記されるので成立はそれ以降. 朱筆校正あり. 表紙に「稿本」と記される. [サ: 0179, ク: 329]
- [37] 救荒本草通解八卷救荒野譜通解二卷【杏1682】岩崎常正(灌園)著, 門人守良章・田村守文校〈写〉10冊, 文政3(1820)校《備考》『救荒本草通解』は明・周定王朱櫛編『救荒本草』(周憲王救荒本草)の岩崎灌園による講述抄本. 草木野菜の和名・形状・所在・薬用や工芸などへの用途を述べ, 園芸品種や近縁種も挙げる. 『救荒野譜通解』は明・王磐編『荒野譜』の講述抄本と見なされる. 文政3年門人守良章, 田村守文校. 「野間氏蔵書印」あり.

- [38] 居家養生記三卷【杏 688】三宅建治著〈刊〉1冊，文化4（1807，浪華書肆海部屋勘兵衛《備考》養生をはじめとする家庭医学書。養生総論・養生・節情欲・節飲食・謹起居・防病・食療（養老・育児）・灸治・看病・選医・用薬からなる。真道の朱筆の識語がある。『日本衛生文庫第6輯』に収録。〔サ：0224，ク：265〕
- [39] 漁捕品一卷即平賀源内物産考【杏 4975】平賀国倫（源内・鳩溪）著〈写〉1冊，明和1（1764）《備考》魚介の産地や特徴を記した物産書。アワビ・真珠・蝦の順で始まる。奥書に「明和元年八月平賀源内」と記される。表紙に「珍本」。〔サ：0775，ク：322〕
- [40] 錦窠翁葦筵誌一卷【杏 2212】伊藤篤太郎編〈刊〉1冊，明治15（1882）《備考》荔枝からトビトビムシまで14品の図とその解説。品目の多くは植物で，最初の荔枝（琉球産種を伝植）のみ彩色。伊藤圭介識の解説以外にも中島梅仙らによるものがあり，形状や産地，欧文学名を付す。目魚化石や水晶の記もある。〔サ：1050，ク：71〕
- [41] 欽定授時通考七十八卷【杏 5015】穴山篤太郎編纂，清乾隆帝奉勅原本〈刊〉24冊，明治14（1881）翻刻，乾隆7（1742）原本，内務省勸農局《備考》清朝に編まれた農事集成書の明治時代の翻刻。本書は江戸時代の農書に大きな影響があったとされる。編者の穴山篤太郎は農業他殖産興業に関わる書籍の編集出版を行った。〔サ：0237，ク：288〕
- [42] 菌譜二卷【杏 2211】坂本浩然（直大・浩雪）著〈写〉2冊，天保6（1835）頃《備考》キノコ類の彩色図譜。著者は坂本浩然（通称）で知られる紀伊藩医で画家。藩医の父純庵から医を，曾春占から本草を，華島雪亭から画を学んだ。『植考書屋図書目録』には同著者の同題書はこれを含めて3本ある。この写本は刊本とは若干異なる箇所がある。〔サ：0238B，ク：53〕
- [43] 金蘭方残十九卷【杏 5010】菅原岑嗣等奉勅撰（仮）〈写〉8冊，文政7（1824）写《備考》『三代実録』に名が見える平安時代の医方集だが，流布本はいずれも偽作とされている。清和天皇の勅を奉じて，貞観年間（859-877）に菅原岑嗣らが奉じた。菅原岑嗣は平安時代の医博士・侍医・典薬頭となった人物で，父は『大同類聚方』の編者出雲広貞。『植考書屋図書目録』に「文政七甲申年写す。書抜に大江広彦識すとあり，欠本」と書かれる。残存するのは1-3巻と8-23巻の計19巻分。本書は黒川真頼が錦窠翁米賀会に出陳している。「占恒室図書」（印主久志本氏）あり。〔サ：0241，ク：172〕
- [44] 奇魂二卷【杏 4495】佐藤方定（鶴城・民之助）著〈刊〉2冊，天保2（1831）《備考》随神（かんながら）の医道と和医方を説いた医学書。一名「尚古医典」。日本における医薬の歴史（医薬濫觴）を含み，各種治法を皇国医学論で体系づける。和漢医薬書からの引用だけでなく，記紀や風土記などの和古書をも援用する。また，『大同類聚方』や『金蘭方』などの流布本は偽書であると論じている。本書は黒川真頼が錦窠翁米賀会に出陳している。〔サ：0213，ク：170〕
- [45] 麿海魚譜二卷【杏 1365】白野夏雲著〈刊〉2冊，明治16（1883），鹿児島県勸業課《備考》鹿児島市場に流通する彩色の魚類図譜。明治16年3月の水産博覧会出品のために編まれた。銅版極細密図（薄墨刷含）。325品目の通称・市場扱い時期・標準寸尺を記す。半紙判。〔サ：0293，ク：62〕
- [46] 経正居記事珠府県諸志抄二卷【杏 2227】中村知雄写〈写〉4冊，文政4（1821）写《備考》春夏秋冬の4冊からなる抄出録。『植考書屋図書目録』に「文政五年三月中村知雄写春夏巻にて漳州府志以下四十四編を鈔録し，秋冬の巻には八関通志以下四十五編を鈔録す。元田安家々蔵本」。墨筆の植物図あり。「田安府芸台印」と「猷英楼図書記」の蔵書印あり。〔サ：0299，ク：35〕
- [47] 瓊浦偶筆一卷【乾 1577】平沢元愷（兔道）著〈写〉1冊，安永5（1776）頃《備考》長崎（瓊浦）での見聞録。著者平沢の安永3年（1774）から翌年までの長崎滞在時の見聞，清人との質疑応答などの漢文体による雑録。動植物に関する

- ものも散見する。著者は山城宇治出身の漢学者で『華陽皮相』([31])も著す。「不羈齋図書記」(印主秋山恒太郎・不羈齋)あり。
[サ: 0300, ク: 142]
- [48] 古医方経験二巻薬名考略一卷【乾3916】権田直助著〈写〉2冊, 江戸後期《備考》疾病ごとに処方配列した和方書。冒頭に「薬名考略」を付して, 五十音順に真仮名表記の和名薬物を掲示して漢名を付している。疾病についても同様の形式を採用し, 「加坐耶万比(かざやまひ)傷風」から始まり, 治法や出典を記す。著者の権田直助(1809-1887)は国学系の和方家・神道家。明治維新後は皇典講究所文学部教授・神道本局顧問を経て, 晩年に大山阿夫利神社及び三嶋大社の長として神社再興に関わった。
[サ: 0312, ク: 167]
- [49] 新撰広狭神俱集一卷【杏2352】雲棲子著, 石坂宗哲(永教)校注〈刊〉1冊, 文政2(1819), 甲斐石坂氏陽州園《備考》江戸時代前期の鍼灸書『広狭神俱集』の文政年間の刊行本。日本独自の実用的鍼灸を目指し, 平仮名で書かれて患者一般庶民も読者に想定している。
[サ: 0254, ク: 248]
- [50] 新撰広狭神俱集一卷【杏3761】雲棲子著, 石坂宗哲(永教)校注〈刊〉1冊, 文政2(1819), 甲斐石坂氏陽州園《備考》[49]参照。
[サ: 0480, ク: 248]
- [51] 皇国医系一卷【杏3498】万年純(樺山)著〈刊〉1冊, 文久1(1861), 平安万年氏式覆舎《備考》日本医宗家の系譜書。「我国の医宗を知らないのを嘆きまた医宗たる家も衰微に及びたることを悲悼して家系を世俗にも知らしめ且宗家奮起の基本ともなさん」として著された。近世木活版。美濃判。
[サ: 0255, ク: 284]
- [52] 香字抄一卷【杏551】著者未詳〈写〉3冊, 文永4(1267)《備考》天台・真言系の修治用香薬類の辞書。一連の『香薬抄』『薬種抄』『穀類抄』も黒川本に含まれる [53] [60] [163]。これらのうち、『香字抄』の成立は最も早く, 惟宗利通か丹波雅忠の著作(11世紀頃)で、『開宝本草』(974)に依拠し、『重広補注本草』によつて増訂したとされる。文永4年の写本による。
[サ: 0148, ク: 181]
- [53] 香薬抄一卷増背記一卷【杏3517】僧心覚著〈写〉1冊, 平安時代《備考》天台・真言系の修治用香薬類の辞書。『香字抄』と『薬種抄』をさらに抄して併せたもの。『香字抄』[52]参照。本書は黒川真頼が錦窠翁米賀会に出陳している。
[サ: 0150, ク: 279]
- [54] 合類広益靈宝薬性能毒大成九巻【杏1701】三村玄碩編〈刊〉9冊, 正徳5(1715), 書林土川宇平・杉生五郎左衛門古林堂《備考》曲直瀬道三原著を玄朔が増補した薬物書『薬性能毒』の増補改訂本の一つ。香附子から始まる各薬物について性味と機能を記す。美濃半折横。
[サ: 0164, ク: 176]
- [55] 皇和庶物出産志一卷【杏3505】曾占春(槃)著〈写〉2冊, 江戸後期《備考》産地ごとに「自然物」と「製造」に分けた物産書。薬として使われるものが主に掲載され, 大和の豊心丹, 西大寺の桑山丸, 万病丸などが製造物として掲載される。尚, 同著者の『皇和薬品出産志』(国会白井本)では自然物のみが掲載され, 凡例を欠く。
[サ: 0262, ク: 292]
- [56] 穀及毛類降下表一卷【乾1552】河井庫太郎著〈写〉1冊, 明治時代《備考》米・麦・豆類など小さいものが空から降ってきた記録を, 出典とともに時代順に編集した年表。聖武帝天平14年より安政元年まで。朱筆と墨筆の校正があり, 表紙に「河井庫太郎稿本」と記される。「河井庫太郎」印あり。本書の校正が反映された同題書は明治26年に刊行された。刊本に河井は「茨城県士族」と記載される。
[サ: 0321, ク: 331]
- [57] 国産考二巻【杏1866】大蔵永常著〈刊〉2冊, 天保13(1842), 書林丁子屋平兵衛等《備考》特産品による殖産の見解と具体的方法を挿画を交えて論述した農書。見返題『国産考初編』。巻一は「総論」「国産を拵ふる心得の弁」, 国産となる産物一覧。巻二は杉・松の植林や砂糖について。安政6年には全8巻に拡充して刊行された。[58]参照。
[サ: 0322, ク: 302]

- [58] 国産考八卷【杏1703】大蔵永常著〈刊〉8冊，安政6（1859），撰陽四書樓広益《備考》天保13年刊行の『国産考』[57]を大幅に拡充したものの。外題『広益国産考』。特産品となる楮・杉・檜・松の植林や砂糖・海苔・茶・養蜂など広範にわたる農書。半紙判。『近代思想体系』『岩波文庫』に活字収録。別稿参照。
〔サ：0250，ク：301〕
- [59] 改正国産紙名録一卷【杏3119】尾崎富五郎著〈刊〉1冊，明治10（1877），横浜書肆錦誠堂《備考》外題『諸国紙名録』。紙の種類ごとに越前・美濃・下野などの産地別に掲載した型録。巻末には西洋紙や表具関係について記載あり。昭和46年（1971）に紙の博物館より復刻版が出されている。
〔サ：0473，ク：334〕
- [60] 穀類抄一卷【貴149】僧兼意著〈写〉1冊，保元1（1156）《備考》天台・真言系の修治用類の辞書のうち、穀類を扱ったもの。[52]参照。奥書に「保元、年七月廿五日申時於南岳房北面之面云々」と記される。朱筆の校正、「与住草屋」の印あり。
〔サ：0324，ク：225〕
- [61] 木芽説一卷【杏3461】前田夏蔭（健助・鶯園）著〈刊〉1冊，文政12（1829），宇治御物茶師上林氏《備考》日本における茶の来歴書。『鶯園（おうえん）文集』の一編を宇治の御物茶師上林盛一が刊行を頼んで許された。著者前田夏蔭は清水浜臣に学んだ考証派国学者。
〔サ：0332，ク：104〕
- [62] 虎豹童子問一卷【杏3482】柳亭種彦二世（高橋弘道・笠亭仙果）著〈刊〉1冊，文久1（1861）《備考》虎と豹の異同について問答形式で論じた書物。1860年に両国橋辺りで行われた豹の見世物の人気にあやかった出版物。著者は春村が三世浅草庵を譲った元門弟（別稿参照）。小菊判。
〔サ：0336，ク：136〕
- [63] 昆虫草木略二卷【杏3552】宋鄭樵撰，小野蘭山校〈刊〉2冊，紹興31（1161）原著，天明5（1785）和刻校本，平安小野氏衆芳軒《備考》南宋の鄭樵（夾漈）編著の『通志』20篇目（巻75-76）に収められた『昆虫草木略』を小野蘭山が校して和刻したもの。「田安府芸台印」「田藩文庫」「猷英樓図書記」の印がある。美濃判。
〔サ：0340，ク：27〕
- [64] 濟急記聞一卷【杏1389】旦暮庵野菓著〈刊〉1冊，天保7（1836）《備考》諸国における飢饉困窮者の救済逸話を集めた救荒本。美濃判。『近世地方経済資料』に活字収録されている。
〔サ：0341，ク：328〕
- [65] 菜譜三卷【杏3154】貝原篤信（益軒）著〈刊〉3冊，文化12（1815），平安1勝馬喜六郎瑞錦堂《備考》貝原益軒による蔬菜の栽培書。『諸菜譜』とも。『榎考書屋図書目録』には「品目数136種，享保再版本は149種」など詳しく記される。
〔サ：0345別，ク：14〕
- [66] 採葉使記三卷【杏1894】阿部照任（将翁・友之進）・松井重康（玄著）口述，後藤光生（梨春）注，高木大醇録〈写〉1冊，安永9（1780）《備考》阿部将翁と松井玄著の採葉記。享保7年（1722）の二人の採葉行の中で，特に注目して口述された天産物について，後藤梨春が注を加えて高木大醇が記録したもの。「広瀬文庫」の印あり。
〔サ：0348B，ク：208〕
- [67] 察証弁治啓迪集八卷【杏1904】曲直瀬正盛（一溪・道三・雖知苦齋）著〈刊〉8冊，慶安2（1649），京都上村次郎右衛門《備考》曲直瀬道三の編著による医学全集・医方書の刊行本。自序は天正2年（1574）。美濃判。
〔サ：0301，ク：174〕
- [68] 三世随筆【杏3588】西門蘭溪編〈写〉1冊，天保3（1832）《備考》小野蘭山述「魚譜」「花彙」「東夷物産志」の合綴本。表紙には「大田南畝旧蔵本西門蘭溪自筆本」と記される。『榎考書屋図書目録』には「天保三壬辰年誌自筆本一。魚譜小野蘭山述六枚，一。花彙小野蘭山述三枚，一。東夷物産誌卅枚，旧杏花園家蔵本」と書かれる。「杏園」と「迎慶堂蔵」の印，大田南畝（杏花園）の識語あり。
〔サ：0389，ク：66〕
- [69] 爾雅名物小識一卷【杏1919】江蘭阪野翁（三浦蘭阪・義徳・玄純・季行）著〈刊〉1冊，天保5（1834）《備考》中国最古の類語辞典『爾雅』から本草などの項目を選び出して考証した書

物。漢文体。木活字，小菊判。著者三浦蘭阪は河内出身の医師，小野蘭山の門下で『名物摭古小識』[159]の著作もある。

[サ：1083，ク：89]

[70] 質問本草内篇四卷外篇四卷附録一卷

【杏2279】呉継志撰〈刊〉5冊，天保8(1837)，薩摩薩摩府学《備考》160類の植物図に名称・産地・生態・薬効等を解説した書物。島津重豪(1745-1833)の命により編纂され，天明5年(1785)に彩色写本が完成した後，改訂を経て天保8(1837)年に刊行された。呉継志は架空の人物で，編纂は中国滞在の琉球人による調査と長崎来航のオランダ人・中国人・漂着者等へ質問した回答も含まれる。この黒川本には図に筆彩が施されている。「田村愿印」(印主は画家の田村愿郷・豪湖)あり。[サ：0408，ク：46]

[71] 紙譜一卷一名新撰紙鑑【杏3627】木村青竹著〈刊〉1冊，安永6(1777)，江戸山崎金兵衛等《備考》紙の種類と産地についての便覧書。外題『新撰紙鑑』。美濃三折横。

[サ：0482，ク：309]

[72] 時物正誤二卷【杏3635】朱之瑜(舜水)談話〈写〉1冊，元禄7(1694)写《備考》饅頭などの飲食物，草木・魚・虫等の本草の漢名に対して和名を片仮名で付した解説書。表紙の右に「舜水談話」題箋に「時物正誤」また見返しに「唐音時物正誤事物訂証倭漢」と書かれる。表紙には「珍本」とある。『植考書屋図書目録』に「元禄七年甲戌年写同書にして朱舜水聞書と表題する一本あり」とあり，別本の存在が記されている。

[サ：0413，ク：73]

[73] 増補手板発蒙一卷追加一卷【杏3866】藤井威斎(大坂屋四郎兵衛)著〈刊〉1冊，文政7(1824)，山城屋左兵衛《備考》薬舗で扱われる品目の便覧書。和漢名・分部・俗名・薬舗の通称・問屋の符牒印・産出地などを掲載し，物品の真贋ならびに良悪の解説も加えている。序によると小野蘭山の『本草綱目啓蒙』等に基づき，さらに西洋物産家に請て増補し，また品目を加えて小野蕙畝の訂正を経て増補とした。著者の藤井威斎(大坂屋四郎兵衛)は薬店主人で本草

家。『植考書屋図書目録』には同一目録番号で初版本(文政6)，文政7の本書，文化12年版の3種蔵本する旨や，洋数字表の有無などの各版の比較説明あり。美濃三つ折横長小本。

[サ：0435，ク：192]

[74] 傷寒論一卷即永源寺本傷寒論【杏313】張仲景(原書)〈写〉1冊，康治2(1143)写《備考》延暦寺から永源寺に伝わったとされる永源寺本傷寒論。末尾に「康治二年亥九月書写之沙門了純」が記される。

[サ：0091，ク：286]

[75] 証類備急本草画残一卷【貴209】王継先等奉勅撰(原書)〈写〉1冊，江戸時代《備考》「証類備急本草」から図を集録。『植考書屋図書目録』には「重修政和經史証類備用本草書の図を集録す」と記される。

[サ：0442，ク：203]

[76] 植学啓原三卷図一卷【杏1949】宇田川榕(榕庵)著〈刊〉3冊，天保5(1834)，江戸宇田川氏善薩楼《備考》日本における最初の西欧植物学書。彩色の図があり，分類・形態・生理を解説。「東京芝伊皿子町三十五番地旧廿四番地須田義景」の印あり。美濃判。[サ：0446，ク：44]

[77] 食物和歌本草増補七卷【杏2336】山岡元隣(而愠斎)撰〈刊〉3冊，元文2(1737)，書林大阪藤屋弥兵衛《備考》寛永7年(1630)の『和歌食物本草』(著者不詳)を大幅に増補改編した食物本草書。食用の本草について鑑別し，摂取法を和歌に仕立てイロハ順に配列する。半紙判。『食物和歌本草大成』に影印収録。

[サ：0469，ク：180]

[78] 汝南圃史八卷【杏2319】周文華撰〈写〉4冊，万暦48(1620)原本，江戸時代写《備考》明代の周文華編著による花卉・果木・蔬菜等の農書『汝南圃史』からの抄出。表紙に「白河文庫旧蔵本」の記載あり。「白河文庫」「桑名文庫」「立教館図書印」(印主桑名藩校)の印あり。

[サ：0587，ク：45]

[79] 庶物類纂二百五十八冊【杏6846】稲生宣義(若水)，丹羽正伯著編〈写〉258冊，天明4(1784)・弘化3(1846)写《備考》元禄時代に稲生若水が始め，丹羽正伯が引継ぎ，正徳・享保にかけて編纂され元文3年(1738)に完成し

た博物・物産全書。稲生若水は加賀金沢藩の儒者役に仕官し、藩主前田綱紀に編纂兼計画が採用された。258冊のうち33冊の「宝永元甲申年の伝写本」に相当するものが黒川文庫に由来する。他は喜多村直寛手写本や植考書屋による写本を含めて「別口」として購入された。

[サ：0476, ク：13]

[80] 神遺方三卷【杏1955】丹波康頼著〈刊〉3冊，文政6（1823），平安和気義啓貽安斎《備考》丹波康頼が編んだとされる秘方書。偽書と見なされている。「尾張伊藤圭介之記」の印あり。美濃判。

[サ：0479, ク：239]

[81] 神遺方三卷【乾3902】丹波康頼著〈刊〉3冊，文政6（1823），平安和気義啓貽安斎《備考》

[80] 参照。

[サ：0479, ク：166]

[82] 神農本経一卷【杏5520】編者未詳〈写〉1冊，江戸時代写《備考》序例の抄録。『本草綱目』の「神農本経名例」からの抄出，付点本。表紙に「古写本」。

[サ：0486A, ク：202]

[83] 神農本草経三卷附考異一卷【貴227】森立之編併付録〈刊〉1冊，嘉永7（1854），福山森氏温知葉斎《備考》陶弘景以前の『神農本草経』再現を目標に輯成したもの。表紙に「森立之校刻本」と書かれる。半紙判。

[サ：0488, ク：201]

[84] 新編異国料理一卷【乾1444】又玄斎南可著〈刊〉1冊，文久1（1861），江戸宝集堂《備考》中国の調理法を説いた料理書。美濃折横。

[サ：0491, ク：375]

[85] 水虎考略一卷【杏5609】栗本丹州（澹州）〈写〉1冊，天保12（1841）《備考》『植考書屋図書目録』に「澹州が河童に開す奇談及其の当時の伝聞せる事実を集録す（自筆稿本）」。彩色図あり。外題「水虎考」表紙に「珍本」と記される。冒頭の「引用書目」に『和漢三才図会』以下14本ほど列記される。巻末2丁半にわたり天保14年の朱筆の添書あり。「伊東蔵書」印あり。

[サ：0495, ク：70]

[86] 雖知苦庵養生物語一卷増贅言一卷【杏1733】平野重誠（革谿・元良・真観舎・桜寧室主人）〈刊〉1冊，天保3（1832），平野氏拙善居《備

考》曲直瀬道三に託名された平野重誠による江戸時代後期の養生書。外題「道三翁養生物語」。中年以上の人の養生について，柳生居士からの問に答えて語られる。「日本人の養生」という観点から述べられ「養生は灸針もたゝ無葉なり/火の用賢に水をたくはえ」のような狂歌も交えて庶民向けに説く。[173]も同著者による。『日本衛生文庫第1輯』所収。[サ：0560, ク：242]

[87] 少彦名遺法一卷即白川御家医祖神伝

【杏3782】著者未詳〈写〉1冊，元亀3（1572），天明3（1783）写，嘉永2（1849）校《備考》白川流神道家に伝わる和方書。題箋「白川御家医祖神傳」。本文は真仮名（助詞は小字）で書かれる。朱筆の校正あり。「血須地能和加地」から始まり「以上六拾四組波/少彦名命乃遺法/維時天明三癸卯年/神祇伯二位資頭王門御生/玄武洞/源元包子」まで。奥書に「伝聞/白川御家有医祖神伝之書云頃日不図得此一冊不知是其御伝書欵猶他日以之可伺京都者也/高潔」，さらに朱筆で「別紙/此一卷ハ白川御家乃御蔵也弘法大師真蹟之本以写置者也/元亀三壬申年正月十八日丹波長秀記」と「嘉永二年二月二十七日校了」が記される。

[サ：0477, ク：273]

[88] 成形図説三十卷【乾1563】曾占春（槃）・白尾国柱編編〈刊〉30冊，文化1-3（1804-06），鹿児島藩《備考》寛政4年（1792）に島津重豪が曾占春へ命じて編纂された図譜を伴う物産・博物書。当初の題は「成形実録」。農業に重きを置き，鳥類についても書かれる。寛政11年（1799）から藩士・国学者白尾国柱が編集に関わった。

[サ：0505, ク：296]

[89] 西仙二柱考一卷【杏3794】花垣幸国（一衛）著〈刊〉1冊，天保14（1843），播磨西仙寺金蔵院《備考》播磨国多可郡和多山西仙寺（現・西脇市西田町）の本尊正面の二本の柱の由来植物についての考証本。左は躑躅で右は萩と伝わるが，和漢典籍を引いて萩は榛（はり）の訛伝だとする。本尊が座す本堂は白雉年間（650-654年）の建立で，永禄の兵火にも焼け残り明和年間に修理を加えた。享和年間に朽ちた古材を用いて硯箱を製作，それに寄せた芝山中納言持

- 豊・万里小路一位政房の歌文を取める。天保14年榛間国多可郡西仙寺金蔵院現住大量の跋あり。 [サ：0508, ク：98]
- [90] 製油録二巻【杏1985】大蔵永常著〈刊〉2冊，天保7(1836)，浪華書肆岡田群玉堂・杉岡石倉堂《備考》製油に関する物産書。油絞りの道具や種子を細粉する作業風景などの図などが含まれる。同著者の『国産考(広益国産考)』[58]から「製油」の部分再版したものと推定される。 [サ：0516, ク：297]
- [91] 石品産所考不分巻【杏5658】木内重暁(石亭)著〈刊〉2冊，明治6(1873)，津枝正信蔵版《備考》鉱物の産地についての物産書。表紙に「作者不詳或云木内石亭著」。木内石亭は近江国志賀郡に生まれ，奇石蒐集家として名を馳せた。全国の愛好家を集めて「弄石社」を結成し，物産会でも交流した。鉱石類を分類した『雲根志』や『蔵石目録』の著作がある。蒐集品は鉱石の他にも勾玉・石鏝・化石なども含まれ，鉱物学のみならず日本の考古学の先駆となった。末尾に「白礫水」による朱筆の識語で，白井光太郎所蔵の石亭真蹟本とする『諸州石品産所記』に言及している。 [サ：0525, ク：394]
- [92] 雪華図説一卷統一巻【杏4507】土井利位(許鹿)著〈刊〉1冊，天保3(1832)，古河城主土井氏愛日軒《備考》雪の結晶図鑑。半丁に6図描かれ，約9丁分は雪片の観察図が占める。「陽春廬記」(小中村清矩)「堀氏文庫」印あり。 [サ：0526, ク：145]
- [93] 千金方残一卷即真本千金方【杏2376】孫思邈撰(原書)，松本幸彦撰〈刊〉1冊，天保3(1832)，江戸松本幸彦《備考》「真本千金方」と称される『千金方』伝本の江戸時代後期の刊行本。和氣家に伝わり宋の林億らの校正を経ない第一巻のみの『千金方』別本を天保3年に松本幸彦が影印刊行した。「存巻第一用天正三年和氣氏伝鈔古本影刊天正三年」とあり。 [サ：0492, ク：162]
- [94] 泉家丸散膏薬秘方一卷【乾2205】小泉久敬筆〈写〉1冊，天保15(1844)写《備考》丸散膏薬の家伝薬方書。「天保十五甲辰年初夏應兵庫飯罵氏老翁崙写而贈之／但馬医官小泉久敬」の奥書。16丁。 [サ：0531, ク：240]
- [95] 草花集七巻【杏2387】江村復所(如圭)〈写〉7冊，江戸後期《備考》墨筆の草花図に和名(真仮名に片仮名の傍訓)を付して漢文で解説した植物図譜。「福寿草一名元日草」から始まる。『植考書屋図書目録』に「書名は異なれども内容は聚芳帯図左編なり」と記される。『聚芳帯図左編』の著者江村復所(如圭)(未詳-1732)は松岡玄達の弟子で『詩経名物弁解』等の著作がある。「春草堂蔵書」印あり。 [サ：1067, ク：41]
- [96] 造酒製法一卷濁酒焼酒醬油製方一卷【乾1721】著者未詳〈写〉1冊，江戸後期《備考》造酒や醬油の醸造行程の彩色図入り解説書。各工程の作業風景や道具の図は細部にわたり明解である。表紙には「珍本」とあり。「不羈齋図書記」(印主秋山恒太郎)の蔵書印あり。別稿参照。 [サ：0356, ク：369]
- [97] 草臆枕譚一卷【杏5700】曾占春(槃)著〈写〉1冊，江戸後期《備考》医薬・本草・博物にかかわる随筆風論考集。「草窓沈譚」として「医薬の始め」「草木培養」など30余題を集録している。 [サ：0354, ク：221]
- [98] 草木異名之次第一巻【杏3845】水島ト也(之成)等著〈写〉1冊，江戸前期著，文化3(1806)写《備考》和歌などに詠み込まれる植物の異名便覧書。室町時代の二条良基(1320-1388)が足利義光に献じたと伝わる『草木異名抄(蔵玉和歌集・草木異名事)』等の連歌の秘伝書に記載される異名を列記したもの。「神代草一門松の事・初見草一松の事」など。著者の水島ト也(1607-1697)は故実礼法家。5丁。 [サ：0359, ク：64]
- [99] 染猩々絨小虫説一卷【杏3220】柴野邦彦(栗山)著〈写〉1冊，江戸後期《備考》虫由来の赤色素コチニールについての自筆稿本。漢字仮名交じり文。「柴邦彦図書後帰阿波国文庫別蔵于江戸雀林荘之万巻楼」(印主徳島藩蜂須賀家)の蔵書印がある。柴野栗山が阿波侯に上した旨の真頼の識語あり。別稿参照。

- [100] 大同類聚方一百卷【杏2017】出雲広貞・安倍真貞奉勅撰（仮）〈刊〉11冊，安政3（1856），佐藤神符満《備考》平安時代の出雲広貞・阿部真直等の奉勅編纂した医方書。国内各地の古来から伝わる医方を集めたとされる。刊行者佐藤神符満（佐藤方定）は『奇魂』[44]で伝本は偽書であると詳述したが，この典薬寮蔵本による「寮本」を信頼に足るとして安政3年より刊行した。欠巻第2至第7。 [サ：0547，ク：156]
- [101] 大同類聚方【杏3908】出雲広貞・安倍真貞奉勅撰（仮）〈刊〉1冊，文化4（1807）《備考》医学館旧蔵本『大同類聚方』巻29から34まで。 [100] 参照 [サ：0547B，ク：223]
- [102] 大同類聚方一百卷【杏4351】出雲広貞・安倍真貞奉勅撰（仮）〈刊〉10冊，文政10（1827），豊洲武藤氏大倭医堂《備考》臼杵祠旧蔵本（臼杵神社本）『大同類聚方』の武藤吉得校による版本。 [100] 参照 [サ：0547A，ク：157]
- [103] 大明一統志摘録一卷【杏3914】堀直格抄出，明李賢等奉敕（原本）〈写〉1冊，天順5（1461）原著，安政5（1858）写《備考》明の勅撰地理書『大明一統志』の堀直格による自筆抄出本。天順5年（1461）成立の『大明一統志』（90巻）は江戸時代の日本に影響を与え『雍州府志』などの地方志や明治初年の『大日本国誌』等の地誌編纂に反映した。正徳3年（1713）に和刻本が刊行されている。堀直格は信濃国須坂藩の第11代藩主。文化3年第9代藩主・直皓の三男として生まれ，文政4年長兄の死去により家督を相続した。黒川春村と交流があった（別稿参照）。「堀氏文庫」印あり。 [サ：0552，ク：410]
- [104] 橐駝考一卷【杏6650】唐公愷（它山）著〈刊〉2冊，文政7（1824），書肆和泉屋金右衛門《備考》橐駝（たくだ）や駱駝などの語源を持つラクダについての和文編纂本。形状・生態・飼育法・故事等について，漢籍等から集めて編纂された。本来あるはずの，蘭書から転写した口絵の彩色ラクダ図は，本書では剥がされている。「三島文庫」「沼徳」印あり。 [サ：0563，ク：26]
- [105] 竹田白双紙切紙全部一卷【杏5797】竹田某著〈写〉1冊，文政10（1827）写《備考》産前産後の処方や診法，養生法も交えた婦人科の切紙集。題箋「白雙紙」朱筆にて「校本竹田家方」と書き加えられている。「万里杏」から始まる各種治法には民間療法も含まれる。漢字平仮名交りで朱筆以外にも藍筆の書入れがある。巻末に朱筆にて文政十年の日付と「野間本により浅井本で校補」とあり。 [サ：0711，ク：283]
- [106] 多識編七巻【杏2011】林兆珂撰〈写〉6冊，明代（原本）《備考》『詩経』に見られる動植物を分類して注を施した林兆珂（明代・生没年不詳）による本草辞典の抄本。林羅山（道春）の『多識編』の編纂に影響した。本書は旧田安家蔵で，「田安府芸台印」「田藩文庫」「献英楼図書記」「迎暎閣図書記」の印記がある。表紙に林兆珂の字名「孟鳴著」と記される。 [サ：1115，ク：15]
- [107] 玉の卵槌一卷附録一卷【乾6623】平野重誠（革谿・元良・真観舎・桜寧室主人）〈刊〉2冊，天保8（1837）《備考》凶年後の疫病に注意喚起して庶民向けに対処法を説いた一種の養生書。『卵槌』とは疫病災禍よけのお守りのことで，書かれたのは天保の大飢饉の頃。 [サ：0570，ク：231]
- [108] 中山伝信録六巻【杏2021】徐葆光撰〈刊〉6冊，明和3（1766），岡瑞卿《備考》徐葆光による琉球（中山）地誌の和刻本。針路図，風景，人物の図あり。徐葆光は清国の冊封副使として1718年に琉球を訪問し，帰国後1721年に『中山伝信録』6巻を著した。表紙の黒川の類別印は「外交」となっている。「芋芋苑文庫」印あり。 [サ：0575，ク：外交]
- [109] 長寿養生論正実巻二巻【杏3942】松本鹿鹿著〈写〉2冊，文政11（1828）写《備考》松本鹿鹿（多田宣錦）による論説集。男女交合論など家庭医学的内容も含むが，全体的に仏教批判論が多い。表紙の黒川類別印は「本草」ではなく「教育」である。関氏伝写本による文政11年（1828）蜂屋源正の写本。寛政7年乙卯（1795）初秋の著と記される。「埴矛文庫」の印あり。

- [110] 鳥名便覧一卷【乾1417】鳥津重豪(南山老人)著,曾占春(槃)校<刊>1冊,文政13(1830)《備考》五十音順の鳥の和名集. 方言・漢名・蘭名・属品を記す. 跋は栗本丹洲. 属品を含めて総計400余の鳥名を集録. 「阿波国文庫」「不忍文庫」の印あり.
- [サ:0588,ク:270]
- [111] 通仙延寿心法二卷【杏3963】著者未詳<写>2冊,元禄8(1695)《備考》江戸時代前期の産家・養生書. 卷上は「子のなき人に子を持たする法」からはじまる産前産後の18条,卷下は「薬も飲まず針灸もせず病まぬ法」からはじまる15条の養生論. 元禄8年の写本による. 『日本衛生文庫第6輯』に収録.
- [サ:0607A,ク:77]
- [112] 天地万物造化論一卷【乾902】王柏著,周顯注<刊>1冊,寛永19(1642),京都田原仁左衛門《備考》宋時代の儒学者王柏(魯齋)による『万物造化論』の寛永19年(1642)の和刻本. 題箋「万物造化論」. 20丁にわたり混沌無極から天地・二気流通・動植物などの生成を解く. 著者の王柏(1197-1274)は経学を極め『魯齋集』『大象衍義』『太極衍義』『書疑』等の多くの著書がある.
- [サ:0601,ク:182]
- [113] 天文医案二卷【杏3971】田代三喜齋(昌純)著,若山立意(敬齋)補義,加藤愨之(玄順)校正<刊>1冊,安永2(1773),大阪書林浅野弥兵衛星文堂《備考》田代三喜齋(昌純)による室町時代の医方書の江戸時代の校刊本. もとは無題で後に『三喜齋秘法』奥書天文18年(1549)とされ,安永2年(1773)に『天文医案』として刊行された. 疾病と治方は,片仮名を多用して書かれ,所々漢字を傍に付している. 上巻は「夫寒熱ヲ見ワケベキ事」から「頭ツヨクイタミ」まで,下巻は「チウフウノ事」から「毒ノ事」まで. 治方に民間療法や食治を含むものが散見される. 小菊判. [サ:0613,ク:233]
- [114] 動物箋不分卷【杏3284】編者未詳<写>15冊,江戸時代《備考》和漢諸本から動物に関する事項の抄出集. 引用元は『本草和名』『和名本草』『多識編』『庶物類纂』『花鏡』『潜確類書』『李華一家言』『浙江通志』『桂海虞衡志』など多岐にわたる. 15冊の内訳・引用書などは『植考書屋図書目録』に詳述される. 漢文体. 「水月蔵」の印あり. 書題の「動」は実際の本では「通」と表記される. [サ:0614,ク:21]
- [115] 徳用食鑑一卷【杏5941】大蔵永常著<刊>1冊,天保4(1833)序,江都書林衆星閣・圭文閣・万笈堂《備考》救荒時の代用食に関する本. 天保4年(1833)年春から天候不順で天保の大飢饉が始まり,秋頃から出版が多くなった救荒書の一つ. 粥・混ぜ飯・雑炊などの代用食の作り方などが説明される. 小菊判.
- [サ:0620,ク:313]
- [116] 歳玉集一卷【杏1487】佐藤方定(鶴城・民之助)著<刊>2冊,文久1(1861)《備考》庶民向けの家庭医学集. 天保十年より毎年一枚ずつ庶民へ配ったものを集めたもの. 「湯火傷治す伝」「乳拵(こしら)ふ伝」「齒の痛肩のはりいたむを直す伝」など20項目. 挿絵あり. 『日本衛生文庫第3輯』に収録. [サ:0621,ク:194]
- [117] 屠蘇名義考一卷【杏2035】多紀元簡(桂山)著<写>1冊,天明7(1787)《備考》屠蘇の名義について『千金方』はじめ漢籍等から由来を考証したもの. 添書に,躋寿館にて多紀元簡と岡山医官尾玄琳との間で「屠蘇の義」の問答を交わしたことがあり,それが下敷きになった旨が記される. 末尾に天明7年の元簡の識語がある. 片倉元周編の『屠蘇考』天明8年(1788)刊の「桂山先生屠蘇考」と題された部分に,本書の4丁余りの文が含まれている. 表紙に「多紀元簡自筆稿本」「自筆珍」とある.
- [サ:0622,ク:72]
- [118] 鳥養草三卷【杏4005】比野重行(勘六)著<写>3冊,享和2(1802)稿《備考》薩摩藩の御鳥方比野重行(勘六)著の養禽書で「鳥賞案子」等の名で伝わる写本の一つ. 外題「厚生新編続集」. 「鳥賞案子」や「鳥養草」の名で伝わる写本は多種あるが,その中でも「勘六の原著に近い」とされる(磯野年表1992A1995H). 本書には享和二壬戌年稿の記あり. 「飼方餌付方

之部」「唐紅毛渡り鳥之部」「和鳥之部」の3部から構成され、和鳥の産地・唐鳥の渡来・輸入などが書かれる。表紙に「珍本」と記される。

[サ：0317, ク：38]

- [119] 頓医抄五十卷【杏2427】梶原性全著〈写〉18冊，宝暦2（1752）写《備考》鎌倉時代に和漢混交体で書かれた医学全書。『榎考書屋図書目録』に「奥付曰右頓医抄全部以吾岸和田侯之蔵書模写之小兒門者昔年以京師誓願時福正院蔵書抄出之別為小冊他日改正之宝暦二壬申春直方守典官暇学文之余カ自二月四日始之到四月廿一日終之」と書かれるように、岸和田侯蔵写本による。朱筆校正あり。1・2・8・9・40-47巻を欠く。著者梶原性全（浄観坊）は僧医で、『万安方』（[156][157]）も著した。

[サ：0625, ク：173]

- [120] 渚の丹敷一卷にしきの落葉一卷【杏2429】曾占春（槃）著〈写〉1冊，享和3（1803）序《備考》貝類の解説書で、和歌の引用を交えている。上巻は桜貝から始まる二枚貝が集録され、目録には50種243名、付録に「にしきの落葉」がある。下巻は保ら貝（法螺貝）から始まる巻貝等72種297名。享和3年（1803）自序。『榎考書屋図書目録』では上下2冊本として掲載されるが、杏雨書屋では下巻は[121]に分けられた。いずれも「西山」「只誠蔵」「布袋堂」の蔵書印あり。「只誠蔵」の印主は関根只誠（しせい）（1825-1893）で、元松屋七兵衛として幕府の御用達を務めた書籍収集家。昭和12年に日本古典全集刊行会から『国史草木昆虫攷下』に活字集録。

[サ：0629, ク：52]

- [121] 渚の丹敷残一卷【杏4017】曾占春（槃）著〈写〉1冊，上記参照《備考》[120]参照。下巻に相当する。

[サ：0629, ク：52]

- [122] 難経雲庵抄一卷【貴387】谷野一柏（雲庵・連山人）著，僧道器筆〈写〉1冊，永禄2（1559）写《備考》『難経』の日本人による室町時代の注釈書。巻末に「永禄二歳己未十一月一日」の日付がある釈道器の写本。

[サ：0632, ク：165]

- [123] 難経蓬庵抄一卷【貴389】僧道器（蓬庵）著〈写〉1冊，室町時代《備考》室町時代の僧道器

による『難経』注釈の自筆稿本。「大久保氏図書記」の印あり。

[サ：0631, ク：164]

- [124] 日東魚譜不分卷【杏4037】神田玄泉（一通子）著〈写〉1冊，元文1（1736）《備考》日本における魚介類としては早期（享保年間）に成った図譜。彩色の図に方言や別名を付し、形状や気味有毒を漢文体で記す。著者の神田玄泉は医家で『本草図翼』『食物知新』などの著書がある。「元文元年」（1736）の日付あり。

[サ：0648, ク：113]

- [125] 日本山海名物図会五卷【杏2435】平瀬徹斎著，長谷川光信画〈刊〉5冊，宝暦4（1754），阪府書林前川善兵衛文栄堂《備考》長谷川光信の彩色画，平瀬徹斎著による日本各地の物産画譜。製塩・精糖・製陶・製紙・鉱物採取・宇治の茶摘・海女などの労働図，諸国物産図説を含む。別稿参照。

[サ：0652, ク：289]

- [126] 蝮川秘書一卷【杏4052】蝮川口伝，片倉元周（鶴陵）写〈写〉1冊，文明年間，文化10（1813）写《備考》医療記録を含む蝮川家に伝わる雑録。文明年間（15世紀後半）の日付が見える。処方や生薬についての覚書，背膈の図示説明など含む。末尾には「文化十歳癸酉年冬十一月八日卒業/鶴陵居士片倉元周」の署名がある。朱筆校正あり。「伊沢蘭軒旧蔵」と表紙に書かれ「伊沢氏酌源堂図書記」印あり。別稿参照。

[サ：0649, ク：205]

- [127] 俳諧季寄図考二卷【杏1140】梅枝軒来鶯（芝峰）著〈刊〉2冊，天保13（1842），梅枝軒《備考》季語を月別に図示して和名・異名を載せた植物季語図鑑。草木約500品が収載される。「椿年」「吉祥窟蔵書」の印あり。

[サ：0695, ク：63]

- [128] 花かつみ考一卷【杏2056】藤原義比著〈写〉1冊，寛政6（1794）著，文化14（1817）写《備考》古来歌に詠まれた「はなかつみ」についての考証本。「寛政六年二月正四位藤原義比」の記あり。また寛政7年4月に松田直之に書写させた旨を長瀬真幸が記す。表紙には「中島広足書入自筆本」と記される。中島広足（1792-1864）は肥後国熊本城下の細川家家臣の家に生まれ、

長瀬真幸に師事した。晩年は藩校時習館の国学教授となった。「広足印章」朱筆の書入あり。

[サ：0729, ク：140]

[129] 花かつみ考一卷【杏2441】紀(池田)貞一編纂, 多賀常政, 屋代弘賢等著〈写〉1冊, 文化11(1814)序《備考》花かつみに関する複数の著作の紀(池田)貞一による編纂書。文化11年5月西園洪江虬序あり。集録されるのは多賀常政・大久保忠寄・小野高潔・狛諸成・屋代弘賢・松平定信らのもの。「居敬堂図書記」「池田氏文庫」印, 巻末に紀貞一の付記ならびに「紀貞一印」他2つの印, 朱筆の読点がある。池田貞一は累円術で知られる文化文政時代の和算家。

[サ：0727, ク：100]

[130] 春の七くさ一卷【杏2060】曾占春(槃)著〈刊〉1冊, 寛政12(1800), 楽群堂《備考》春の七草について, 史書や文学の記述を検討した図入りの考証本。寛政7年(1795)の自序。

[サ：0741, ク：84]

[131] 蕃薯合考一卷【杏1529】青木敦書(昆陽)原本, 小比賀時胤(合刻), 鈴木俊民(付録)〈刊〉1冊, 文政6(1823), 浪華糸川氏《備考》サツマイモの栽培書。波華長堀の木材商糸川某が文政6年(1823)に頒布したことから「糸川施板」とも呼ばれる。外題「蕃薯考」。青木昆陽の享保20年(1735)刊『(重刻)甘藷記』と長崎の地役人の小比賀時胤(こひがときたね)の文化2年(1805)刊『蕃薯解』との合刻。鈴木俊民編の『甘藷之記』延享2年(1745)に追加された俊民の付録もある。[サ：0750, ク：69]

[132] 避鬼草久須利之卷二卷耶麻比之卷二卷【杏6095】衣関伊都伎(順庵)筆〈写〉1冊, 文政4(1821)写《備考》下野国那須郡式内温泉神社の古写本による和方書。久須利之卷と耶麻比之卷(薬と病の上下巻)から成り, 真仮名を交えた漢文体で書かれる。生薬は和名と漢名が混じる。「煎而用流八種薬之大意」の標題の下「引上薬」から始まり「紀多奈紀病美曾岐薬」まで。奥書には「下野国那須郡式内温泉神社祭神大己貴命少彦名神庫中之古写本也社司小泉甲斐守秘蔵重襲有故而謹騰於黒羽寓維峯文政四年

云々衣関伊都伎」とあり。衣関順庵は眼科医・和方家。

[サ：0757, ク：210]

[133] 百卉存真図一卷【杏1546】坂本純沢(復元・永斎)著〈刊〉1冊, 天保2(1831), 高槻侯侍医坂本氏瑞葉楼《備考》薬草の形状・開花期・結実期などを記した図鑑。題箋「日本百花写真図」。28品の図を収録。著者は紀伊藩医坂本純庵の次男で坂本浩然(1800-1853)の弟。摂津国高槻藩医で, 生没年不詳, 名は復元, 通称純沢, 号永斎。父純庵の著作『百花図纂』天保6年(1835)末の画も描いている。序は曾占春が寄せている。

[サ：0660, ク：99]

[134] 物品識名不分巻拾遺不分巻【杏1767】水谷豊文(助六)著〈刊〉4冊, 文化6(1809)・文政8(1811)《備考》動植物の和名をイロハ順に配列し, 対応する漢名と出典を記した和漢名辞典。方言や形状など補足情報を付すものもある。本書は尾張藩のお目見医師の岡林清達が着手したが, 眼疾のため中断して浅井貞庵に依頼されて豊文が完成させた。杏雨書屋に入庫した折に, 黒川本『物品識名拾遺』(2冊・文政8年刊)と合わされた。

[サ：0784・0785, ク：132・133]

[135] 分部本草妙用十巻【杏6166】顧逢伯撰〈刊〉10冊, 崇禎3(1630)自序《備考》実用的分類法で編纂された明時代の本草書。薬として使われるものについては, 肝・心・脾・肺・腎・兼経・雑薬の大分類のもと, さらに温補・寒補・温瀉・寒瀉・性平に下位分類し, 各品の性味・配合禁忌・主治を記す(巻1-8)。巻9以降は穀・菜・果・獸・禽・水族(魚等)・水・火・土の各部ごとに品目が揭示される。本書は田安家旧蔵書で「田安府芸台印」「献英楼図書記」「田藩文庫」の印がある。『本草概説』の「江戸中期以前に日本に渡来した漢籍」の中で「楂考書屋図書目録」には田安家旧蔵本が見え「一名大観本草綱目全書」¹⁵⁾と言及される本に該当する。

[サ：0791, ク：2]

[136] 暴瀉須知一卷古呂利考一卷避瘟法一卷【乾3816-1】浅田惟常(宗伯・栗園)著〈刊〉1冊, 明治13(1880), 東京山辺三子(如春病院

- 蔵版本)《備考》浅田宗伯による暴瀉の種類と治法についての書。〔サ：0801, ク：220〕
- [137] 本草一家言十六卷【杏 6226】松岡玄達(成章・恕庵・怡顔齋)著〈写〉7冊, 江戸中期《備考》松岡玄達の講述や遺稿の門人による集録。大半は漢文だが, 漢字片仮名交りの部分もある。朱筆の校正あり。〔サ：0818A, ク：60〕
- [138] 本草沿革一卷【杏 6233】岡本保孝(況齋・勘右衛門)著〈写〉1冊, 江戸後期《備考》歴代の本草書の沿革と系譜を記した書。『神農本草経』に始まる本草書の項目を立てて説明する。『本草和名』や『医心方』などの和書への掲載について言及するものが散見される。後半では, 主な著編者について項目を立てる。著者の岡本保孝(1797-1878)は幕府旗本の次男で, 清水浜臣と狩谷椽齋に学んだ国学者・考証学者で蔵書家。〔サ：1153, ク：90〕
- [139] 本草経薬和名考一卷【杏 6253】森立之著〈写〉1冊, 安政6(1859)自序《備考》『神農本草経』に掲載される本草に対応する和名の考証本。漢文で書かれ, 本草の和名については真仮名を使用する。森立之の自序は安政6年, 成稿は安政6年54歳を記す。末尾に慶応2年の小島尚綱の朱筆の識語がある。「小島氏図書記」の印があり「宝素堂鈔本」が印字された用紙が使われる。表紙には「森立之旧蔵本但首尾自筆」と記される。〔サ：0842, ク：212〕
- [140] 本草啓蒙名疏七卷【杏 6254】小野職孝(蕙畝)〈刊〉8冊, 文化6(1809), 平安小野氏衆芳軒《備考》小野職孝の祖父蘭山が著した『本草綱目啓蒙』に現れる和名・漢名をイロハ順に配列した索引書。和漢名本草辞書を兼ねる。〔サ：0843 別, ク：20〕
- [141] 本草原始十二卷【杏 1168】李中立撰, 葛禀校〈刊〉8冊, 年未詳, 金閨永懷堂《備考》『本草綱目』の要点を整理し, 図を載せて使いやすくした本草書。万暦年間の初刊以来, 明末以降広く親しまれて日本でも重刊された。〔サ：0844C, ク：7〕
- [142] 本草綱目五十二卷図三卷瀕湖脈学一卷脈訣考証一卷奇経八脈考一卷【杏 1769】李時珍〈刊〉30冊, 万暦31(1603)《備考》本草図ならびに「瀕湖脈学」・「脈訣考証」・「奇経八脈考」を付した『本草綱目』。〔サ：0821, ク：1〕
- [143] 本草綱目啓蒙四十八卷【杏 1174】小野職博(蘭山), 門人岡邨春益(聖与)録〈写〉14冊, 天保12(1841)《備考》小野蘭山の『本草綱目』の講述を弟子らが整理した江戸時代最大の博物誌。奥書に天保12年(1841)の日付のある南海海保致堂写本。海保致堂(竹逕, 1798-1866)の養父は儒学者海保漁村。『竹逕随筆』などの著作がある。序に朱筆あり。〔サ：0828 別, ク：19〕
- [144] 本草綱目指南音引六卷【杏 829】著者未詳〈刊〉2冊, 正徳4(1714)《備考》『本草綱目』のイロハ順による索引書。巻1-5は音引, 巻6は訓引。編著者刊記なし。〔サ：0832 別, ク：8〕
- [145] 本草綱目袖珍鑑一卷【杏 6304】前田前保〈刊〉1冊, 安政3(1856)《備考》本草の漢名に対して和名と関連品を掲示した便覧書。外題は「袖珍鑑」。美濃三つ折。〔サ：0428, ク：155〕
- [146] 本草綱目訳説五十二卷【杏 6326】小野職博(蘭山), 門人石田熙録〈写〉20冊, 江戸後期《備考》小野蘭山の『本草綱目』講義を門人の石田熙(ひろし)が筆録してまとめたもの。表紙に「巻一〜四まで缺」と記される。〔サ：0835, ク：3〕
- [147] 本草綱目訳説四十八卷【杏 1176】小野職博(蘭山), 門人石田熙録〈写〉20冊, 江戸後期《備考》[146] 参照。〔サ：0835, ク：3〕
- [148] 本草随観一卷【杏 1772】群花園主人著〈写〉1冊, 天保14(1843)《備考》彩色の植物図。半丁ごとに, 全体図と花や葉の部分図を配置している。鬼見愁・壺藤子・アダン・ロカイ・螺曆草(マメヅタ草)・風蘭・百足藤等の名が見られる。表紙には「群花園主人集」と記される。半紙判45丁ならびに別紙あり。〔サ：0852, ク：91〕
- [149] 本草正正訛一卷【杏 6362】山岡守全(恭安・竹酔子)〈刊〉1冊, 安永7(1778), 勢州書舗文台屋庄左衛門等《備考》『本草綱目』の誤りを正したとする松平君山の『本草正譌』(1776

年刊)に対する反論書。著者山岡恭安は尾張の本草家。「朋来館図書記」の印あり。

[サ:0855別,ク:112]

- [150] 本草類編選日本勅号記不分巻即康頼本草【杏1606】丹波康頼(仮)〈写〉2冊,南北朝時代,江戸時代写《備考》丹波康頼に仮託された撰者不詳の南北朝時代の本草書。外題「康頼本草」。黄精から地膽までの薬物について和名・採薬法・修治・性味・功能等を記す。本文の片仮名和名に真仮名を付すなどの朱筆校注あり。「占恒室図書」(印主久志本氏)あり。

[サ:0960,ク:28]

- [151] 本草和名二巻【杏210】深江輔仁奉救撰,多紀元簡校注〈刊〉2冊,寛政8(1796),江戸多紀元簡聿修堂《備考》深江輔仁(深根)の奉勅で延喜18年(918)頃に編纂された日本最古の本草辞典。江戸時代に古写本が紅葉山文庫から発見されて刊行に至った。寛政8年の多紀元簡の序。「岡邨氏図書記」の印あり。別稿参照。

[サ:0883,ク:10]

- [152] 本草和名同音採集索引【杏848】著者未詳〈写〉1冊,江戸後期《備考》五十音順の真仮名表記による『本草和名』の索引。所々に『医心方』や『和名抄』の書名を付す。

[サ:0887,ク:76]

- [153] 重修政和經史証類備用本草序例一卷【貴345】唐慎微撰(原書)〈刊〉1冊,元和6(1620)《備考》『重修政和經史証類備用本草』の「序例」のみを和刻した『本草序例』。元和6年(1620)古活字版による。美濃判。

[サ:0851A,ク:110]

- [154] 本朝医談一卷二編一卷【杏6433】奈須恒徳(玄盅・柳村)〈刊〉2冊,文政5(1822),文政13(1830),江戸奈須氏楊柳居《備考》日本古来の医事に関する随筆。医学関係の内容に加えて,動植物に関する話題も含まれる。第二編は文政13年(1830)に成る。[サ:0888,ク:169]

- [155] 万安方五十巻【杏6448】梶原性全著〈写〉21冊,鎌倉時代《備考》鎌倉時代の梶原性全編著による漢文体の医学全書。同著者の『頓医抄』[119]の和漢混交体に対し,本書は漢文体で漢

籍医書を多く引く。「吉田文庫」,「岸田氏記」印あり。杏雨書屋に入ってから巻一と巻二は別の管理番号が割り当てられた[156]。本書は黒川真頼が錦窠翁米賀会に出陳している。

[サ:0900,ク:185]

- [156] 万安方残二巻【杏716】梶原性全著〈写〉1冊,鎌倉時代《備考》[155]参照。[155]が欠く巻一と巻二とに該当する。「吉田文庫」印あり。

[サ:0900,ク:185]

- [157] 万安方医方類聚書抜一卷【杏791】末永知新抜粹〈写〉1冊,文政11(1828)写《備考》『万安方』と李氏朝鮮時代初期に編纂された『医方類聚』からの抄出本。前者は「安産蔵衣及十三神吉凶方位」から始まり,方位図などを含み,末尾は「覆載万安方卷第三十五墨之紙二十九丁花押」。後者は「医方類聚二百六十六卷之内三之巻書抜」で始まる。奥書に「国君に命ぜられて此書一部奉摸し此巻別而珍説多きまに誌るし置す…文政十一年季戊子辜月二十有六日筑前州末永知新」とあり。[サ:0901,ク:287]

- [158] 妙薬集一卷【乾2174】著者未詳〈写〉1冊,不詳《備考》著者成立年未詳の処方集。ヤケトノ薬・田虫ノ薬・瘡ノ薬など。29丁。

[サ:0915,ク:234]

- [159] 名物摭古小識七巻【杏6512】三浦蘭阪(義徳・玄純・季行)〈刊〉6冊,天保3(1832),河内三浦氏言順堂《備考》本草や物品の名称について和古書の典拠を集めた一種の辞典。『古事記』以来の古書の出典を挙げて和名を考定する。配列は和名のイロハ順。説明は漢文体で,一部の本草(和名)に仮名書きを交える。三浦蘭阪には『爾雅名物小識』[69]の著作もある。

[サ:0913,ク:131]

- [160] 名物訳録四巻【杏471】岩永玄浩(元浩・兼英・耕月堂人)著〈写〉4冊,享保20(1735)《備考》本草や物品に和名や漢異名,和漢出典書を記した書。本書には享保20年の自序の後,「書目省略日記」に約80種の書物が記される。著者の自序には「予蜜歳より東武の伊先生に学び三年にして先生没し…自ら山野川海に経歴し…自得する事十四余年,時に洛の松先生蒙台命東武

- 来居する」と松岡玄達との書簡交流や本書に至る経緯が書かれる。 [サ：0914, ク：55]
- [161] 木瓜考一卷【杏1202】新井君美（白石）著〈写〉1冊，江戸中期《備考》木瓜について『和名抄』や和漢本草書，朱舜水の説などから和名を考証した新井白石の著述。「伊東蔵書」印あり。 [サ：0917, ク：101]
- [162] 薬種一字銘画引一卷【杏6537】著者未詳〈写〉1冊，江戸時代《備考》漢字一字で生薬を表した一字薬名（一字銘）を画数順にならべ，対応する生薬（漢名）を片仮名で付した便覧書。江戸時代後期まで版を重ねた『衆方規矩』に掲載される画数順の「一字銘」とほぼ同じ内容。 [サ：0937, ク：215]
- [163] 薬種抄二卷【杏1626】亮阿闍梨兼意〈写〉1冊，平安時代《備考》亮阿闍梨兼意（1072-不詳）の著と推定される天台・真言系の修法用香薬類の辞書・薬物書。[52] 参照。「尾張伊藤圭介之記」と「与住草廬」の印がある。 [サ：0939, ク：224]
- [164] 薬名考一卷【杏219】小野職博（蘭山）著〈写〉1冊，文政6（1823）《備考》漢籍医書から薬名を拾い出し，和名を示した解説書。題箋「蘭山先生薬名考」。掲示される書目は「傷寒論/金匱要略/千金方/回春/外台秘要/局方/本事方/張氏医通/婦人良方/三因方/外科正宗/徴（癥）瘡秘録/得効方/肘后方/痘科鍵」。漢字仮名交り文。内省庵筆写。 [サ：0955, ク：219]
- [165] 薬名考一卷【乾1526】小野職博（蘭山）著〈写〉1冊，文化4（1807）《備考》同題 [164] 参照。「武田氏蔵書印」の印主は武田醉霞で『好古類纂』を編纂した書籍蒐集家。「文化丁卯正月晦騰写於濟世館」の記あり。 [サ：0955, ク：207]
- [166] 薬名便覧一卷【杏3193】著者未詳〈刊〉1冊，文政10（1827），貽安斎《備考》イロハ順の和本草の名（真仮名）へ漢名を充てた便覧書。題箋「神遺方付録」。表紙に「大崎図書」の印あり。 [サ：0957, ク：195]
- [167] 校訂薬名備考和訓鈔七卷【杏1379】丹波頼理（嶧山・錦小路）著，山澄延年校〈刊〉7冊，天保2（1831）《備考》丹波頼理著の本草辞書『本草薬名備考和訓鈔』（文化4年刊）に山澄延年の校を加えた校刊本。和名のイロハ音を大項目とし，水・火・土・金石・草・穀等を下位分類として品目を掲示し，漢名と出典書を記す。水野広業の天保元年の序文あり。 [サ：0879 別, ク：39]
- [168] 大和本草別本一卷【杏1640】丹波康頼（仮）〈写〉1冊，南北朝時代，文化3（1806）写《備考》「康頼本草」の異本（[150] 参照）。「本草部上品之上黄精・菖蒲・菊花・人参」から始まり両頭蛇で終わる。さらに「千金翼方本草並諸方注以写之予終末…」が続く。東都奈佐久左衛門蔵古写本による。「田邑元斎蔵書」の印あり。 [サ：0967, ク：78]
- [169] 有用植物図説解説三卷図画三卷和名索引一卷【杏6605】田中芳男・小野職愨著，服部雪斎画〈刊〉7冊，明治24（1891），帝室博物館《備考》木版彩色刷の日本産有用植物の図譜と活字版による解説書。図画は博物画家の服部雪斎（1807-不詳）による。図之部3冊のみ試印刷されて，錦窠翁米賀会に大日本農会より出陳された。『錦窠翁米賀会誌』には「田中芳男・小野職愨の同撰にて曲直瀬愛・小森頼信の同校に係る本邦有用植物類一千十五品を集め25の部門に別ち各基重要なる者を取り縮図彩色せしもの」と解説され，明治7年から10年余かけて成稿された。 [サ：0033, ク：17]
- [170] 有用木材捷覧初編一卷【杏6606】博物館博物科〈刊〉1冊，明治9（1876），博物館《備考》日本産出の有用木材の薄片実物を紙上に貼付した標本の書籍。薄片は縦（板目・柁目）と横（木口）の両方を糊付けし，俗称を見出しとし，漢名・学名（科目）・産地・用途などを付す。錦窠翁米賀会に藤野寄命から出陳され，同会誌の解題には「有用木材一百品…明治七年博物局にて製刊」とある。美濃判四つ折。 [サ：0032, ク：147]
- [171] 有林福田方十二卷【杏635】僧有隣著〈刊〉12冊，明暦3（1657），中野是誰《備考》僧有隣（有林）による南北朝もしくは室町時代前期の

- 医学全書の江戸時代前期の印行。「多紀氏蔵書印」,「江戸医学蔵書之記」,「巨元堅」の蔵書印があり,表紙に「有林集明暦三年版多紀元堅旧蔵本珍本」と記される。本書は黒川真頼が錦窠翁米賀会に出陳している。〔サ:0034,ク:158〕
- [172] 養生訓八巻附録一卷【杏6623】貝原篤信(益軒)著,付録杉本義篤<刊>4冊,弘化年間,浪花岩井寿楽《備考》貝原益軒による庶民向けの啓蒙的養生書。杉本義篤の付録あり。「久保氏」印あり。半紙判。〔サ:0925,ク:272〕
- [173] 養生訓二巻附言一卷【杏6632】平野重誠(革谿・元良・真観舎・桜寧室主人)<刊>2冊,天保6(1835),平野氏櫻寧室《備考》親交のあった剣客白井義謙(亨1783-1843)の養生説に影響を受けて,平野重誠が著した養生書。陰陽沖和(なかずみ)の性(うまれつき)を失うことが病になる,という考えに基づいて撰生(ようじょう)の道を説く。平野重誠(1790-1867)は多紀元簡門で、『病家須知』などで知られ,[86]も同著者による。『日本衛生文庫第3輯』に収録。〔サ:0926,ク:251〕
- [174] 養生秘伝一卷【乾1973】著者未詳<写>1冊,不詳《備考》著者未詳による薬物書。序跋無しで,陳皮から始まる生薬について,性味・効能などを漢字片仮名交じりで記す。一字薬名と異名を記すものもある。題箋「養生秘録」。表紙に「古写珍本」と記される。朱筆の句読点等あり。42丁。〔サ:0930,ク:222〕
- [175] 養生弁三巻後編三巻【杏2521】水野義尚(沢斎)<刊>6冊,安政3(1856),江戸須原屋茂兵衛等三都書林《備考》著者水野義尚が長年行った養生法の講釈を著したもの。杏雨書屋に入庫後,天保13年版で題箋「朱雀経験養生弁」の『養生弁』(3冊)と嘉永4年版の『養生弁後編』(3冊)と同帙にされて,同じ管理番号が割り当てられた。上巻は胎毒・薬毒・食毒・酒毒など7種類の毒,中巻は積聚之弁・気病之弁など疾病や身体に関わる13項目,下巻では人相之弁,慎食之弁など諸々の18項目。『日本衛生文庫第3輯・4輯』に活字収録。〔サ:0931・0931A,ク:254・255〕
- [176] 蘭山花鏡記聞不分巻【杏1219】小野職博(蘭山)講,佐藤左膳筆<写>1冊,寛政5(1793)《備考》陳扶揺著『秘伝花鏡』についての小野蘭山の解説を弟子たちがまとめた講義録。奥書に「于時寛政五癸丑年秋九月於武城北街浅草新鳥越寓舎写之亦云/奥北佐藤忠一伯男/遂初堂左膳」とあり。朱筆の注釈と校正あり。〔サ:1184,ク:106〕
- [177] 類聚延長本薬名記一卷【杏4158】土屋雅知校<写>1冊,嘉永5(1852)《備考》『大同類聚方』の各異本における,薬名の相違点を記載した本で,外題「大同類聚方付録」。表紙には「土屋雅知筆桐生人也」と記される。土屋雅知は黒川春村に師事した国学者。冒頭に「大同類聚方付録延長本/同寛仁本/同作者自筆本」の異本3種を列挙して,「同薬異名」の標題の下,植物和名の異名または異表記を真仮名で書き,漢名を付している。「伊波具民伊波古介…巻栢(イワゴケ),「島之久左多知末知久佐…篇蓄(タジマチグサ)と続く。奥書に「或写本云延長三年三月五日和気久求書/明和八卯年三月柳管御小納戸御秘蔵之/大同類聚方全部之付録也/松平信芳謹写/此奥書可考/嘉永五年子八月九日書了/土屋半溪雅知」。〔サ:0548,ク:285〕
- [178] 霊蘭集二巻【乾4305】細川勝元著,片岡晴親校<写>1冊,室町時代《備考》細川勝元による処方集。「従四位下右京大夫源勝元著,大和守片岡晴親校」と記される。「金創」の概説の後「家方大還丹」から始まり,以下処方名に「家方」や「経験」が付されるものが散見される。処方の解説には「勝元曰」や「勝元按」の文も交える。本書は黒川真頼が錦窠翁米賀会に出陳している。〔サ:1003,ク:211〕
- [179] 孿生抄一卷【乾1124-2】遊佐好生(次郎左衛門)著<写>1冊,元禄15(1702)《備考》多胎妊娠や様々なお産について書かれた本。孿生とは双子,三つ子など多胎児のことで,当時の偏見を嘆いて理不尽な風習を改めるべきという動機で書かれた。他にも通常とは異なるお産や多様な形態(異産・異形)で産まれ得ることを中国や日本の事例を挙げて,親の心構えや予備

知識として説く。遊佐好生(木斎 1659-1734)は米川操軒・中村楊齋に学び、山崎闇齋に師事。天和年間に仙台藩儒員、藩史の編纂に従事。『日本衛生文庫第2輯』所収。「青柳館文庫」「称意館蔵書記」の印あり。〔サ：1008, ク：281〕

[180] 老婆心書二卷一名産家心得草【杏 2535】羽佐間宗玄(資承)著(口訣), 森宗哲等編<刊>2冊, 文化14(1817), 東都羽佐間氏桜寧軒《備考》産科医宗玄の口伝を弟子たちがまとめた庶民向けの産育書。新生児への薬の飲ませ方や胎内児などの図を交える。〔サ：0984, ク：252〕

[181] 和歌本草提要四卷【杏 6743】著者未詳<写>1冊, 江戸後期《備考》半丁毎に墨筆で植物図を描き, その植物を詠んだ歌を『万葉集』等から集めて綴った和歌植物図譜。「わかな」(若菜・浅菜)から始まり「むらさき」までの94枚綴り。錦窠翁米賀会に伊藤圭介の名で出陳された。別稿参照。〔サ：1013, ク：114〕

[182] 和名鈔一卷即長平和名本草【杏 4169】丹波長平伝, 丹波元筑校<写>1冊, 天保13(1842)写《備考》「康頼本草」の薬名(漢名)に対して, 和名(真仮名と片仮名)を付した書で, 多紀氏蔵本の岡正武による筆写。題箋「長平和名本草」。黄精から両頭蛇まで。「和名欠」や官庫本との比較に関する朱筆校あり。「寛政三辛亥夏五七日受家敵命依官庫古書本一校畢丹波元筑和名抄之終」とあり, 奥書に「天保十三年壬寅八月以多紀庵良丹波元听蔵本謄写六十九老人岡正武」。〔サ：0591, ク：123〕

黒川氏旧蔵本の確認方法

杏雨書屋に所蔵される黒川氏旧蔵本の目録を作成するにあたり, 準備段階として黒川本であるかどうかの確認手順を以下に示した。尚, 杏雨書屋ではすべて閉架であり, 出庫手続きを兼ねるデータベース利用時における再現性にも配慮して, 検索方法における注意点も付記しておいた¹⁶⁾。

(1) 『植考書屋図書目録』において, 「旧黒川真頼氏蔵本」等の記載のある書籍を『杏雨書屋蔵書目録』で調べて, 黒川氏旧蔵本の初期候補を予め選出した。

(2) 杏雨書屋の施設内で利用できるデータベースで「黒川真頼」「黒川真道」「黒川氏」などをキーワードとして検索し, 黒川本の候補を(1)に加えた。尚, データベースの登録字体には表記揺れが存在し, 「黒」と「黒」, 「真」と「真」などが混在する。OR検索はできない仕様で, 且つそれぞれ別字として扱われるので, 複数の検索式を採用して, 各々得られた結果から該当しないものを目視で除外した。

(3) 候補の書籍を閲覧して書誌情報を照合し, 「黒川真頼蔵書」や「黒川真道蔵書」などの蔵書印の有無から, 黒川氏由来の本か否かの判別を行った。その際に早川氏の蔵書票や書名票の有無も確認し, 『植考書屋図書目録』の目録番号を記録した。

(4) 『黒川文庫目録』の「本草」部門に掲載される書目すべてについて『杏雨書屋蔵書目録』あるいはデータベースで検索してその存在を確認して, 追加候補として(3)の手順を踏んだ。さらに, 杏雨書屋で見つかった黒川本について『黒川文庫目録』における番号と対応させた。尚, 黒川文庫, 植考書屋, 杏雨書屋の各々の目録において, 書題の不一致や表記揺れが少ないので, 注意を要した。

謝 辞

黒川文庫を含む杏雨書屋蔵の植考書屋本の調査実施を勧めて頂き, さらに目録を準備する際にも, 多大なご指導と励ましを頂いた小曾戸洋先生に心より感謝申し上げます。また, 書籍の出庫や施設の利用に関して便宜を図って下さった百瀬祐氏, 瓢野由美子氏ほか杏雨書屋の関係者に厚く御礼申し上げます。

本研究は2016年度杏雨書屋研究奨励の一部です。

注・参考文献

- 吉川澄美. 武田科学振興財団杏雨書屋蔵黒川文庫について. 日本医史学雑誌. 2023; 69(3): 284-300.
- 杏雨書屋蔵書目録. 大阪: 武田科学振興財団;

- 1982.
- 3) 柴田光彦. 日本書誌学大系86黒川文庫目録. 東京: 青裳堂書店; 2000.
 - 4) 早川香邨. 榎考書屋図書目録. 東京: 榎考書屋出版部; 1927. 和装本と洋装本とがあり, 後者には目録番号が振られている。「榎考」の「考」字は草冠に「考」.
 - 5) 早川氏の蔵書票や書名票が貼付されていても、『榎考書屋図書目録』に掲載されない本も存在する. また、『榎考書屋図書目録』では刊行年など書誌情報の異なる同題書を複数所有している際に, 個別の掲載を省略する場合がある. 次の6) (拙稿)も参照.
 - 6) 当時杏雨書屋の管理を担っていた伊藤純一郎旧蔵の『榎考書屋図書目録』には早川本購入に関する書入れがあり, 別本についても部分的に揭示されている. 吉川澄美. 早川香邨の榎考書屋. 杏雨 2023; 26: 334-352.
 - 7) 小曾戸洋. 日本漢方典籍辞典. 東京: 大修館書店; 1999.
 - 8) 上野益三. 年表日本博物学史. 東京: 八坂書房; 1989.
 - 9) 磯野直秀. 日本博物誌総合年表. 東京: 平凡社; 2012.
 - 10) 日本古典籍総合目録データベース. 国文学研究資料館. <https://base1.nijl.ac.jp> (2023年3月末より「国書データベース」へ移行. <http://kokusho.nijl.ac.jp>)
 - 11) 真柳誠. 日本の医薬・博物著述年表(公開画像リンク増訂版). <https://square.umin.ac.jp/mayanagi/paper01/ChronoTabJpMed.html>
 - 12) 国会図書館オンライン. <https://ndlonline.ndl.go.jp/>
 - 13) 岡西為人. 本草概説. 東京: 創元社; 1977.
 - 14) 田中芳男編輯. 錦窠翁米賀会誌出品書籍解題之部. 東京: 宍戸昌; 1891.
 - 15) 前掲書13) (岡西為人). p. 439.
 - 16) データベースの仕様や利用上の条件は, 調査期間2017年から2019年の状況である.